

(1) 報告事項

- ・令和7年度「多布施川水遊び場」の開設について **資料1**
令和7年度の多布施川水遊び場の開設状況について報告
- ・「川を愛する週間特集号の全戸配布チラシについて **資料2**
「川を愛する週間特集号の全戸配布チラシについて説明
- ・河川清掃用具の荷揚げ機について **資料3**
荷揚げ機について報告
- ・企業版ふるさと納税について **資料4**
企業版ふるさと納税について説明

【意見・質疑等】

○司会

企業版ふるさと納税は、市外企業が対象で働きかけが難しく、事業メニューも多いため実際の寄附につなげるのは容易ではないという理解でよいか。寄附額を期待するのは厳しいが、市の取組をPRし知ってもらう手段としては有益で、この項目を計画に入れたことは良いことだと思う。

また、荷揚げ機の試行は昨年度から行われているが、設置場所など課題も多いと思われる。どのような基準で試行自治会を選んだのか教えてほしい。

●事務局

企業版ふるさと納税については、寄附金を安定的に得ることを目的とするものではなく、市民清掃活動を未来へつなぐための下支え策として活用しようとしている。佐賀市の取組への理解と支援を得るため、企業に対し、選択肢の一つとして案内している。

荷揚げ機については、各週末の実施予定の自治会の中から、用具の貸出希望を申し出られる際に、コンテナ引揚器の希望がある自治会でコンテナ数が多く、実施する水路からの引き上げがより困難と思われる自治会に対し、佐賀市から今回開発した荷揚げ機の試行利用を依頼した。

○司会

試行にあたっては、課題があればきちんと明記してほしい。また、企業等パートナーの登録者数が増えているようなので、今後も引き続き取り組みを進めてほしい。

○委員

荷揚げ機に関して、使用感を報告する。今年5月、サンライズパークテニスコート北側の大型河川において、河川砂防課に荷揚げ機を設置してもらい、荷揚げ機と従来のコンテナ引上げ機を併用して作業を行った。

使用者からの意見として、荷揚げ機の良かった点は次のとおり。

1. 最小2名で作業でき、従来のコンテナ引上げ機より必要人数を減らすことができる。
2. ハンドル操作で上下させるため、作業負担が大幅に軽減される。
3. 高さが3メートルあるため、フェンスを外せる大型河川では高所まで対応できる。

使用者から出た主な改善点・課題は次のとおり。

1. ハンドル位置の改善

利き手が右の人が多く、左側にあるハンドルでは作業が重く感じる。右側にハンドルを設置してほしい。

2. 足場の不安定さと積載量の問題

現場の足場が不安定なため荷揚げ機が安定せず、コンテナは1台しか載せられない。耐荷重は100キロとされているが実用性が低く、荷揚げ機よりも足場を固定することを検討してほしい。

3. コンテナの形状・高さの見直し

現行コンテナは高さ20cmと浅く使いづらい。高さ30～40cm程度のコンテナを今後用意してほしい。

4. フェンス越しの受け取り作業が負担

河川は安全確保のためフェンスがあり、多くは開閉できない。フェンス越しにコンテナを受け取る必要があり、腰を痛めるおそれがある。フェンスをその都度外すのも重労働である。

5. ハンドル角度の調整

ハンドルが体に対して直角で回しにくい。90度から60～65度程度に角度を調整し、身体に近い姿勢で操作できるようにしてほしい。

6. 将来的な電動化の検討

故障を避けるため手動式になったが、技術開発ができると思うので、今後は電動式の導入も検討してほしい。

秋にも複数の自治会で検証を進め、来年度の複数台導入につながるよう期待している。

●事務局

利用者が使いやすい機具とするため、改善に努めたい。電動化については、水辺での使用には電源供給などの課題があるため現時点では難しいが、将来的には、要望に応えられるよう、開発や研究などの取組を進めたい。

○委員

作業途中で草を取った場所から草の残る場所へ機具を移動しながら使えるか。

○委員

荷揚げ機の設置は市職員が行っており、一般の人が安全に設置できるか疑問である。可能かどうか確認したい。

●事務局

部品の組立てが必要で、市民が持ち出して使うことは想定していない。今後、需要が広がれば、簡易マニュアルを作成し、市民に説明したうえで利活用をお願いしたい。

○委員

関連して確認だが、この荷揚げ機は既に貸し出し中なのか。また、現在何台保有しているのか。

●事務局

現在は試作機が1台あるのみだが、今年度中に改善を加えつつ2台追加で製作する予定である。

○委員

秋の河川清掃の際、希望すれば自分たちの自治会でも荷揚げ機を借りることが出来るのか。

○司会

機材の数が少ないため、高さがある場所やコンテナ使用で特に困っている自治会を優先してモデル的に実施している。今年度は最大3台の運用となるため、希望を出すこと自体は可能だが、最終的な設置先は市が状況を見て選定する。手を挙げれば必ず使えるわけではないが、相談してもらっていいと思う。

○委員

荷揚げ作業は非常に大変で、ガードレールを外しても約2メートルの高さがあり苦労している。便利な機具だと思う一方で、自分たちの地域に導入されるまでにはまだ時間がかかりそうだと感じた。

●事務局

事前に相談してもらえれば、市職員が現地を確認し、対応することも可能である。遠慮なく相談してほしい。

○委員

ガードレールを外すと、荷揚げ機の使い勝手は大幅に向上する。今回フェンス越しの作業は大変だったが、ガードレールを外して対応したところ、作業効率が大きく改善した。

○司会

労力軽減には大きな効果があるため、意見や要望を踏まえ、今後しっかりと施策に取り組んでほしい。

・意見交換（河川清掃活動、その他） **資料5**

河川清掃活動に係る各種取り組み（水対策市民会議による検討課題整理）について報告

【意見・質疑等】

○司会

これまでの委員会や総会でいただいた意見を基に、企業等パートナー制度の導入や全戸配布チラシの実施につながったものと認識している。

河川清掃活動や市民会議の目的である河川浄化運動の展開について、意見交換を通じてより良い取組としていきたい。

○委員

河川清掃の取り組みが新たな段階に入り、良い方向だと感じている。

若い世代や転入者に佐賀特有の水辺環境への理解を深めてもらうには、きれいな水辺をモデルとして示すことが重要だと考えている。

松原川は既に整備され、きれいな水辺として活用できる場所であるが、最近ではサギの増加などにより砂の上にヘドロが堆積し、水深は浅く子どもが入れるものの、水が汚れているため利用されていない状況である。

松原川周辺は観光拠点にも近く、佐賀のイメージを左右する重要な場所であり、モデル的な場所として再びきれいにできないかと考える。SNSの影響で人が訪れる時代であり、佐賀のイメージ向上や清掃活動の促進につなげるモデルケースとして、来年度以降に再生・整備を検討してほしい。

○司会

松原川は下水道のモデル事業として整備され、当初はイベントにも活用されていたと認識している。また、サギの営巣については、佐賀市で対策を講じたとの報道があったと記憶している。これらを含めて、対応状況や見解を伺いたい。

●オブザーバー

サギが2年位前から巣を作るようになってきている。サギは毎年3月頃から同じ場所に集団で営巣する習性があり、営巣期の追い払いが理想だが、常時実施するのは難しい。来年度は営巣前にドローンなどを活用した追い払い対策を検討している。今回は追い払いができなかったため、鳥獣保護法の手続きを行った上で、営巣した巣を撤去した。今後はサギの習性に配慮しつつ、松原川をきれいに保つため、引き続き対策を進めていきたい。

●オブザーバー

松原川は下水道（雨水）事業により環境整備された経緯がある。しかし、整備から長い年月が経過しており、現在、市内でも松原川の再生について議論を深めている。松原川は象徴的な場所であるため、寄せられた意見を財政面にも反映していきたい。

○委員

議題では松原川や多布施川など旧市内の例ばかり取り上げられているが、他にも新しい事例があるため、紹介したい。意見書に記載して提出すればよいか。

○司会

意見書については、この場で述べられなかった内容や後から気づいた点も含め、自由に記載して提出していただく形となっている。

●事務局

事業報告や紹介など情報をいただければ、広報につなげたいと考えているため、ぜひ提案してほしい。

○司会

この場で思いつかない場合や、整理してから意見を述べたい場合は、後日でも構わないので提案してほしい。

○委員

松原川はかつて非常にきれいだったが、現在はヘドロが堆積しており、水質が悪化している。これは、水量が減って流れがなくなったことが原因であり、川を清潔に保つには「水を流すこと」が不可欠である。

過去に水量回復を求めて八年間活動したが実現せず、行政からも十分な対応が得られなかった。松原川をきれいにするには水を流すことが不可欠であり、矢板設置や掘削により砂地を復元し、水が集中的に流れる川づくりを行うべきだと考える。現在は川床が浅く、水や砂がたまって汚れやすいため、水の流れを強める対策が必要である。水を流せば川はきれいになり、子どもたちも入れる環境となる。松原川は良いモデルケースになると期待している。

○司会

きれいな川は心の潤いとなり、子ども時代の良い思い出にもつながるため、川をきれいに保つことは大切だと考えている。そのために現在の活動があるので、実現できるかどうかは別として、ぜ

ひ前向きに検討してほしい。

○委員

三瀬地区では川幅が広く、流れも速いため河川清掃は難しい。本日、三瀬の中学生がヤマメの放流（28回目）を行った。今年は約15cmと大きめである。1,500匹放流しており、時間がある人は訪れてほしい。

○司会

紹介された取組は川への関心や愛着につながる大切なものであり、参加や後押しをぜひお願いしたい。

●オブザーバー

国土交通省では、水資源を治水だけでなく有効活用する方向で議論が進んでおり、柔軟な水利用が可能となる旨答申が出されている。佐賀市としても、この方針を受け、市内により多くの水を確保できるよう積極的に意見を発信していきたい。

また、水量確保とあわせて川砂や川底の改善が必要であり、松原川がより親しまれる環境となるよう、引き続き改善に取り組んでいきたい。

○司会

カップと握手をした際に放水されるようにしていただきたい。

松原川は佐賀市内を象徴する河川でもあることから、しっかり取り組んでいただきたい。

・取り組み紹介（河川清掃活動と浸水リスクの軽減）

資料6

出前講座の依頼があった際のテーマの一例を紹介

【意見・質疑等】

○司会

令和元年・令和3年の大きな浸水被害は、堤防決壊による外水ではなく「水が排出されず低地に溜まる内水氾濫」が主な原因で、特に武雄・大町地域で大きな被害が発生した。

こうした状況を踏まえ、流域治水の考え方が示される中で、市民活動として取り組めることは、河川清掃などを通じて適切な管理を行い、水の流れを確保することであり、それが水害防止につながるかと考えている。

国や県も河川整備や維持管理に関わっているが、本日はオブザーバーとして出席いただいており、委員会での意見も参考にしながら、国・県・市・市民が一体となって協力し、取り組んでいきたい。

○委員

北川副地区の排水機場整備について、進捗状況を教えてほしい。安住団地では毎年のように床上浸水が発生するため早急な対応を求めている。市が整備を決定してから3～4年経つが、動きが見られないため進捗状況を確認したい。

●事務局

今宿排水機場については、八田江右岸（安住樋管上流）を計画地とし、基本設計・実施設計を経て、今年度から詳細設計に移行する。用地取得に向けた協議も進んでおり、狭隘で難しい現場条件

の中、県の河川管理者と連携し、事業が円滑に進むよう作業を着実に進めている。進捗が報告できる段階になれば、地元へお知らせをしていきたい。

○委員

県への要望として、八田江の川中に繁茂しているヨシを定期的に除去していただきたい。

約10年前に河川内のヨシを機械で除去していただいた際には川幅も確保され、多少の降雨でも安心できる状態であったが、その後、定期的な除去が行われていないため、現在は再び繁茂が進み、川幅が半分以下となるなど、降雨時に不安を感じる状況となっている。県所管ではあるものの、市からも働きかけてほしい。

○司会

県は多くの河川を管理しており、対応には限界があることも理解しているが、要望はぜひ挙げてほしい。また、近年は雨の降り方が変化しており、梅雨明け後の8月に線状降水帯による大雨が発生した例もあるため、引き続き降雨状況に注意し、警戒と対応をお願いしたい。